

(仮称) 多摩市文化芸術将来ビジョン 2024~2033 (案)

文化芸術で描く将来像 ~街と市民のあるべき姿とは~

将来ビジョンの柱

文化芸術に親しむ市民のすそ野が広がっている
 気が付いたら、身近で日常的に多様な文化芸術に触れている

街の姿 (第1・2回委員意見より)

触れる	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが様々な文化芸術に触れられるよう、身近で多様なイベントやお祭りが実施されている街 プロアマ問わず多くのアーティストがいたるところで文化芸術活動(発表)を行い、活気がある街
交流・つながり	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術に触れた後に人々と余韻を楽しむ工夫がされており、コミュニティが広がっている街 地域の大学・企業・市民・行政が、協力し住環境を整え、美しい街で文化芸術を楽しんでいる街 多摩市立複合文化施設を拠点とし、文化芸術を通して教育機関・医療機関・農業分野と連携している街 屋内・屋外を問わず文化芸術活動が活発に行われ、市民だけでなく、域外の人々とも交流が生まれる街
触れる環境	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活を大切にし、住んでいることに価値を見出すために、地域で文化芸術の土壌を耕している街 文化施設が誰にでも開かれ、様々な体験ができ、生涯を通じて活動したいものが見つかる街 市民が生活するなかで、文化芸術に自然と触れる工夫を行っている街
支援	<ul style="list-style-type: none"> 才能ある担い手を積極的に支援している街 活動の場と表現活動の担い手、表現活動の担い手同士を繋げる、見つける、そしてチャンスを作っていく街 文化芸術の場を取りまとめ管理するディレクターや、人と人の合意形成・相互理解に向けて支援するファシリテーターがいる街
市民の力	<ul style="list-style-type: none"> 市民の専門性や長所(得意なこと)の活用や、市民からの提案で文化芸術を振興させていく街 文化芸術活動を気軽に始められるよう、様々な活動を紹介するインフルエンサーがたくさんいる街

市民の姿（第1・2回委員意見より）

市民	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、リアルやオンラインで文化芸術に触れることを、身近で、親しみを感じている ・市民は、文化芸術に触れることをきっかけとした、仲間との飲食やイベントを楽しんでいる ・市民は、「自分たちの街は自分たちできれいにしていく」という意識が芽生えている ・市民は、文化芸術活動が行われることの大切さを理解し、文化芸術活動や担い手を尊重している ・市民は、<u>街や人を大事に思い、人の想いに寄り添い協力し、賑わいを作り出している</u> ・市民は、<u>文化芸術でいろいろな人と交流し、つながっている</u>
子ども・若者	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、子どもたちに文化芸術活動に参加・体験する機会を与え、子どもたちは、赤ちゃんの頃から文化芸術活動に触れている ・赤ちゃん・妊婦… ・子どもたちは、文化芸術に参加・体験しており、文化芸術に対する興味を深めている 小学生… 中学生… 高校生… 大学生… 青年…
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代は、子どもを産み育てながらも途切れることなく文化芸術活動に参加している ・ミドル世代は、積極的に文化芸術活動に参加し、文化芸術の人材育成が図られている ・高齢者世代は、<u>子どもたちに文化芸術を伝え、生きがいを感じており、子どもたちは自分たちの「好き」や「得意」を伸ばしている。</u> 外国人… 障がい者…